

カナダの思い出（3：最終回）

及川 洋

1. 働く目的の違い

日本人は家庭や家族を犠牲にして会社のために働くと言われている。確かに、仕事の上では家族や家庭の事情は二の次であり、土日はもとより、祝日にも働く。夜は夜の付き合いで帰りも遅く、家で食事することも少ない。おかげで個人の所得は高くなり、家財も豊富になった。

一方、カナダで長年生活している日本人に聞いた話だが、カナダの人々は家族のため、あるいは夫婦での土日の生活、および夏冬のアウト・ドアを中心とした長期のバカンスを楽しむためにその一年を働くという。年度当初の家族会議はその年のバカンスを相談するらしい。確かに、大半の家にはキャンピング・カーがあり、海岸にはきれいなマリナーが至る所にある。スキー場も整備されており、一年を通していつでもアウト・ドア生活を楽しめるようになっている。夏はさわやかで、夜の10時頃まで明るいこともあって、土日には何処へ行ってもカナダ人の楽しそうなアウト・ドア生活が見られる。知り合ったドイツ系カナダ人の Walter Kellner などは、友達と共同で小型の飛行機を持っており、土日には必ずフライトを楽しんでいる。彼らはライセン

スを維持するために定期的にある距離以上の飛行をしなければならないようであるが、これにはうちの子供達も乗せて貰い、操縦までさせて貰った（写真-1）。カナダ人の所得は日本人に比べて決して多くはない。手元の資料によれば、世帯平均年所得は5万1633カナダドル（約465万円）である。普段の食生活も質素である。しかし生活スタイルは日本より遥かに豊かである。

カナダ人も日本人に負けずよく働いていた。しかし、働く目的は日本人とは全く違う。どちらの目的が良いかは小生にも分からないが、外国人が言う「エコノミー・アニマル」という言葉の真意は理解できたような気がする。

ところで、欧米諸国では、満18才になると経済的に親から完全に独立しなければならないらしい。大学に行きたいならば自分で稼がねばならない。親は一円たりとも援助しないらしい。カナダでも同様であった。そのため、大学の講義に対する学生の評価は厳しい。下手な講義に対するブーミングも何回か聞いた。自分で稼いだ金で勉強しているため、本当に真剣である。子供への仕送りという習慣が無くなるだけでも、日本の生活スタイルにはもっと余裕が出来そ

うな気がする。

2. カナダの大自然

カナダの国土面積は997万km²。これは日本国土の約27倍、ロシアに次ぐもので、アメリカより広い。人口は約2729万人で、日本の4分の1以下。しかも、人口の殆どは北緯50度線のアメリカ国境沿いに集中するため、一步郊外に出ると見渡す限りの広大な大自然がある。その光景は一見、北海道と似たところがあるが、規模がまるで違う。



写真-1 至る所にある飛行場に寄ってくるため、朝飛んでいっても夕方まで帰ってこない。滞在中、一番長く感じた一日。

バンクーバーからカナディアン・ロッキーまで片道約 900km、トランス・カナダ・ハイウェイを延々と走らなければならないが、大自然とはこんなに綺麗なものと感動するとともに、日本の自然なんて全くちゃちで、あってもなくてもよいように思われてくる。湖の数は人口の数ほどあるといわれるだけ多いが、エメラルド・グリーンの美



写真-2 湖とロッキー山脈の一光景

しさとその後ろの氷河を湛えた山々の美しさには全く飽きがこない(写真-2)。ドライブ中、時々上空にヘリコプターを目にする。これはスピード違反の取り締まりらしい。カナダ、アメリカならではの大光景だ。

写真も随分撮った。しかし、あの感動はなにも写っていない。写真-2の光景も実際に見るともっともっと綺麗である。

あまり自慢話ばかりしていると、また行きたくなってくる。これをもって最後の報告とさせていただきたい。

(秋田大学 土木環境工学科)